

短 報

日本産バラ属ノイバラ節の種間雑種 (大場秀章^a, 秋山 忍^b, 御巫由紀^c)
Hideaki OHBA^a, Shinobu AKIYAMA^b and Yuki MIKANAGI^c: Interspecific Hybrids between
the Japanese Species in *Rosa* Section Synstylae (Rosaceae)

Summary: Four interspecific hybrids with two nothovarieties between the species in *Rosa* section Synstylae have been found throughout Japan. This paper aims to describe the characters of each interspecific hybrids and nothovariety and provide citations for specimen deposited in TI and TNS.

バラ属ノイバラ節 (*Rosa* sect. Synstylae) の日本産種にはヤマイバラ (*R. sambucina* Koidz.), ノイバラ (*R. multiflora* Thunb.), ミヤコイバラ (*R. paniculigera* (Makino ex Koidz.) Momiy.), テリハノイバラ (*R. luciae* Rochebr. & Franch. ex Crép.), ヤブイバラ (*R. onoei* Makino), フジイバラ (*R. fujisanensis* (Makino) Makino) がある. 上記のうち, ヤブイバラには地理的変異が認められ, アズマイバラ (*R. onoei* var. *oligantha* (Franch. & Sav.) H. Ohba) とモリイバラ (*R. onoei* var. *hakonensis* (Franch. & Sav.) H. Ohba) が変種として区別される (Ohba 2001, Akiyama et al. 2006).

分布範囲が広いとはいえ, 生育場所が林縁や裸地, 草地に限定される同節では狭い範囲に数種が共に生育していることがあり, そのようなところでは上記の種の特徴を併せ持つような個体が見出されることがあり, それらの多くは種間雑種と推定され分類群として記載されている (Ohba 2001).

しかし, 母種と推定される種の中には他種からの識別が容易ではないものもあり, 上述の種間雑種については未だ注意が払われているとはいいい難い. 秋山らは関東地方南部に産するアズマイバラの分布について研究したが (Akiyama et al. 2006), その際に種間雑種と推定される個体が存在することに気付いた. これとは別に御巫は各地にノイバラ節の種間雑種があることに気付き独自に研究を続けてきた.

本稿は, Ohba (2001) が認めたノイバラ節

の種間雑種について, 概説するとともに, 東京大学総合研究博物館, 国立科学博物館などに収蔵される当該標本を示し, その存在範囲, 識別点や問題点について述べ, ノイバラ節種間雑種についての理解への手がかりを提供することに努めた.

1) *Rosa* × *misimensis* Nakai in J. Jpn. Bot. 15: 529 (1939).

ミシマノイバラ

両親種はテリハノイバラとノイバラであると推定される. ミシマノイバラは中井猛之進により1939年に本誌で発表された.

タイプ標本は, 本州山口県 (長門) の萩市沖合い40数 km の日本海の只中にある見島で地元の学校長によって採集され, 仲介者を経て中井の手に届いたものであるが, 採集者の名は記録されなかった (Momiyama and Ohba 1988). 托葉や小葉, 茎, 花冠など種で差のある形質の多くが推定両親種とされるノイバラとテリハノイバラの中間の状態を示しているが, 花柱はテリハノイバラ同様に有毛である.

ミシマノイバラは花柱が有毛であるためノイバラからは明瞭に識別されるが, 葉は光沢がなくノイバラに近い葉質である. 花のサイズは小さく, 花序の花数は少ない.

磯海岸では後背地のノイバラがテリハノイバラの生育地にまで広がり, ときに接して生えているのを見る. そのような場所では雑種と推定される個体を探す, これまで出会ったことがない. 通常, 多くの地域ではテリハノイバラがノイバラより1ヶ月程度遅れて開花することから考えても, おそらくこの組合せの雑種はきわめて稀であるように思われる. タイプ・ロカリティーでの採集標本の他, 長崎県で外山三郎が採集した標本 (Japan. Kyushu. Nagasaki Pref. Omura-cho, Kushimazaki 大村町玖島崎. S. Toyama 114, 114b, 10 June 1940 and 4 July 1940, TI) がある.

タイプ及び上記の標本は小さな島や岬の突端部で採集されている。そのような場所は、両親種ともに同種の他の集団とは離れて存在しているとみられ、特殊な状況にあるともいえる。現時点では標本は少ないが、今後、島嶼地域を丹念に探索すればより広い地域で本雑種が見い出されると思われる。

長崎県の平戸島志々伎で富樫誠によって採集された標本 (Nagasaki Pref. Ins. Hirado-jima, Shijiki. M. Togashi, 26 Apr. 1969, TI) には、初山が1982年にノイバラとテリハノイバラの雑種とした同定箋がある。しかし、テリハノイバラを片親とする雑種としては葉質が薄い。ノイバラとヤブイバラの雑種あるいはノイバラそのものの可能性が高い。

2) *Rosa* × *momiyamae* H. Ohba in K. Iwats. & al., *Flora of Japan* 2b: 177 (2001). [Fig. 1]

ミヤコテリハノイバラ

テリハノイバラとミヤコイバラの雑種と推定される。タイプ標本は大阪府 (摂津) 川辺郡中山で1949年6月20日に富樫誠が採集した。多くの形質が両親種との中間の状態にあるが、検討した標本個体ではいずれも花粉が異常形態を示し稔性がないと推定された。また花は直径1.5 cm 位で、直径3–3.5 cm になるテリハノイバラだけでなく、1.9–2 cm になるミヤコイバラよりも小形である。

葉は通常9小葉からなり、頂小葉と側小葉の差異はほとんどなく、広卵形または広倒卵形、長さ幅とも0.9–1.2 cm になり、先は鋭頭から円頭または切頭まで変化があり、基部も円脚から広楔脚まで変化があり、両面とも無毛である。

ただし小葉のかたちはテリハノイバラもミヤコイバラも変異の幅が広く、本雑種はそれを反映してか、あるいはどちらかの両親種の属性が強く現れるためか、両親種のどちらかに近いかたちをした小葉をもつ株もある。下記に引用した門司市で採集された標本 (Hashimoto s. n.) はテリハノイバラに近い小葉をもつ例である。花を欠いた状態ではときに両親種との区別がむずかしい個体が現れる。しかし、テリハノイバラからはミヤコイバラにみられる腺毛が葉柄や多くの場合には花柄に生じること、花が小さく花序の花数が多い

ことにより区別できる。葉柄や花柄に腺毛を生じる点はリュウキュウノイバラも同様だが、上記の花序の花数、花の大きさや小葉のかたちなどが異なる。ミヤコイバラからは小葉は倒卵状楕円形または長楕円形で、頂小葉は多くは先が尖鋭頭となることにより区別できる。

本雑種と同定される標本を以下に示す。

Japan. Honshu. Gifu Pref. Ena-gun, Kashimo-mura, Nakagiri, Kisogoe-toge 岐阜県恵那郡加子母村, 中切, 木曾越峠, alt. 700 m (H. Kanai, 14 June 1958, TI). Shiga Pref. Sakata-gun, Mt. Ibuki 伊吹山 (T. Makino, July 1931, MAK, TI). Osaka Pref. (prov. Settsu). Kawabe-gun, Nakayama (M. Togashi, 20 June 1949, TI, holotype). Kyushu. Fukuoka Pref., Moji-shi, Mt. Tonoue 門司市戸の上山 (T. Hashimoto, July 1952, TI).

3) *Rosa* × *makinoana* H. Ohba in K. Iwats. & al., *Flora of Japan* 2b: 177 (2001). [Fig. 2]

ヤブテリハノイバラ

和名が示すようにテリハノイバラとヤブイバラの雑種と推定されるものである。表記の学名は牧野富太郎が1900年に植物学雑誌23巻に発表した *Rosa luciae* var. *paniculata* Makino に対する新名である。牧野はこの変種にコバノテリハノイバラの和名を与えたが、混乱を避けるため表記のものに改める提案を行った。タイプ標本は1893年に土佐 (高知県) Ikku (一宮) で牧野自身により採集されている。なお、この時同時に発表された *Rosa luciae* var. *parvifolia* Makino 和名ヒメテリハノイバラも本雑種であると考えられる。この変種のタイプも上記の Ikku と同じ土佐 Karatani で共に牧野自身が採集している。

テリハノイバラの2変種を発表したこの論文で、牧野はヤブイバラ *R. onoei* とフジイバラ *R. luciae* var. *fujisanensis* も同時に記載するなど、日本の多様なノイバラ節のバラに初めて鋭いメスを加えたのである。

テリハノイバラでもなくヤブイバラでもないバラの存在に気付いた牧野はさすがだが、その分類学的な処置には苦慮した。この時点で牧野はフジイバラをもテリハノイバラの変種として扱っており、テリハノイバラが幅広い変異性をもつ種だと解釈したため、本雑種もその変種として理解されたと考えられる。

本雑種はテリハノイバラからは花が小さく



Fig. 1. *Rosa* ×*momiyamae* H. Ohba. ミヤコテリハノイバラ. Japan. Osaka Pref. (prov. Settsu). Kawabe-gun, Nakayama (M. Togasi, 20 June 1949, TI, holotype).



Fig. 2. *Rosa* \times *makinoana* H. Ohba. ヤブテリハノイバラ. Japan. Mie Pref. (Prov. Ise), Ichiuda, Goryoda [伊勢一宇田御料田] (C. Chuma 35, 13 June 1977, TI).

概ね直径1.5 cmであることや、葉は光沢に乏しく、小葉は5または7で、卵形や狭卵形となり、先が鋭頭またはやや鋭頭のもの混ざることによって区別される。ヤブイバラとは茎が多少とも匍匐傾向をもち、小葉に倒卵形または卵形のもの混ざり、しかも頂小葉は側小葉と大きさのうえで大差なく、裏面の毛がなにか少ないことで異なる。

検討した標本を以下に示す。

Japan. Honshu. Mie Pref. Mt. Asama 朝熊山 (C. Chuma 38, 48, 28 May 1977, TI); Ise, Mt. Asama, Kamo-iriguchi 伊勢, 朝熊山加茂入口 (C. Chuma, 3 Nov. 1976, TI); Ise, Ichiuda, Goryoda 伊勢, 一字田, 御料田 (C. Chuma 35, 13 June 1977, TI); Toba-shi, Wagu to Momotori in Isl. Toshi (G. Murata 20657, 8 June 1969, TI). Shikoku. Ehime Pref. Onsen-gun, Saraga-mine 温泉郡皿ヶ嶺山麓 (S. Yamamoto, 12 Nov. 1944, TI).

4) *Rosa* × *pulcherrima* Koidz. in Bot. Mag. Tokyo 31: 128 (1917). [Fig. 3]

オオサクラバラ

ノイバラとアズマイバラの雑種と推定される。タイプ標本は横浜で栽培されていた個体から得られた。アズマイバラはヤブイバラの地方変種であり、ヤブイバラ自体とノイバラの雑種と推定される個体も見出される。さらに垂直分布でヤブイバラやアズマイバラと住み分けるモリイバラにもノイバラとの雑種と推定される個体がある。前者を 4a) ヤブノイバラ、後者を 4b) ドウリョウイバラと名付けた (Ohba 2001)。

オオサクラバラは片親のノイバラと較べると、花柱に毛を生じる点で異なり、小葉はノイバラより小形で広卵形または倒広卵形となり、やや質が厚い。托葉の歯牙は少なく、多くが腺毛状となる。アズマイバラからは、花数が多く花径が大きいこと、葉質が草質に近いことで区別できる。

本雑種と考定できる標本は少なく、以下の標本が該当すると考えられるが、Kadota 1933 及び Kanai s. n. は、ノイバラとミカワイバラと仮称されるヤブイバラの一型との雑種の可能性も否定できない。

Japan. Honshu. Kanagawa Pref. Yokohama cult. (K. Hisauchi s. n., TI, holotype). Yamanashi Pref. Nishiyatsushiro-gun, Shimobe-cho, Shimobe JNR Station–Yunooku, alt. 300–600 m (Y. Kadota 1933, 7 June

1976, TI); Mts. Tenshi, Shimobe, Yunooku 天子山塊湯ノ奥 (下部温泉) (H. Kanai, 21 Aug. 1955, TI). Tokyo Pref. (Prov. Musashi), Nishi-tama-gun, Kori-mura, Manaisawa 古里村真名井沢 (M. Mizushima 2017, 8 June 1952, TI).

4a) *Rosa* × *pulcherrima* Koidz. nothovar. *multionoei* H. Ohba in K. Iwats. & al., Flora of Japan 2b: 177 (2001). [Fig. 4]

ヤブノイバラ

ヤブイバラとノイバラの雑種と推定される。多くの点で両親との中間性を示すが、検した標本はすべて花粉に稔性がなく、花は直径12 mm 以下と両親種よりも小さいという特徴をもつ。オオサクラバラからは頂小葉が狭楕円形または狭長楕円形で、上記のように花が直径12 mm と小形である点で異なる。この雑種の葉の多くは5小葉からなり、頂小葉は長さ2–3 cm, 幅0.8–1.4 cm, 先は鋭頭または短鋭尖頭になる。このように書くと葉の形状ではヤブイバラから区別するのが困難であるような印象を与えてしまうが、ヤブイバラと違って葉身は全体に無毛またはほとんど無毛であるか、まばらに毛が生じる。

検した TI の標本では花粉は染色されず、稔性はないと考えられる。しかし、下記に引用した標本のうち、兵庫県で採集された Fukuoka 13697 は果実期の標本で、一見膨らんで登熟しているような果実をつけている。そのうち2個を解剖したところ、1つにはまったく種子はなかったが、他の1果は3個の登熟した種子を有していた。しかし、花粉の稔性は極めて低いことから、交配可能な胚珠を生じることも極めて稀と推定される。したがって、登熟種子ができること自体極めて例外的なことであり、ヤブノイバラは本質的には稔性をもたない雑種と解される。タイプ標本は三重県伊勢内宮、神路山、旭谷で1977年6月4日に中馬千鶴により採集された。

以下の標本はこの雑種に当ると考えられる。

Japan. Honshu. Mie Pref. (Ise), Shinrosan, Asahitani 伊勢, 神路山, 旭谷 (C. Chuma 27, 29 (holotype), 4 June 1977, TI); Ise, Ujijamada, Naigu, Shinro, Asahitani 伊勢, 宇治山田, 内宮, 神路, 旭谷 (C. Chuma, 26 May 1978, TI). Wakayama Pref., Hidakagun, Mazuma-mura, Kawamata 日高郡真妻村川又 (T. Nakajima s. n., 29 July 1931). Hyogo Pref.,



Fig. 3. *Rosa x pulcherrima* Koidz. オオサクラバラ. Japan. Yamanashi Pref. Nishiyatsushiro-gun, Shimobe-cho, Shimobe JNR Station-Yunooku, alt. 300-600 m (Y. Kadota 1933, 7 June 1976, TI).



Fig. 4. *Rosa* \times *pulcherrima* Koidz. nothovar. *multionoei* H. Ohba. ヤブノイバラ. Japan. Mie Pref. Prov. Ise), Shinrosan, Asahitani [伊勢神路山旭谷] (C. Chuma 29, 4 June 1977, TI, holotype).



Fig. 5. *Rosa* × *pulcherrima* Koidz. nothovar. *kanaii* H. Ohba. ドウリヨウイバラ. Japan. Kanagawa Pref., Hakone, Minamiashigara-machi, Saijo-ji [相模箱根南足柄町最乗寺, alt. 500 m] (H. Kanai, 23 May, 1958, TI, holotype).

Sayou-gun, Nannko-cho, along way between Maruo and Mitsuo, alt. 100-200 m 佐用郡南光町丸尾—三つ尾間 (N. Fukuoka 13697, 19 July 1990, TNS). Yamaguchi Pref. (Prov. Nagato), Mine-gun, Akiyoshidai 美祢郡秋吉台 (K. Oka 33479, TNS). Kyushu. Kagoshima Pref. (Prov. Ohsumi), Ohkuchishi, Hagidan (S. Sako 6392, 19 May 1966, TNS); Sakurajima 桜島 (S. Ide s. n., 29 May 1932, TNS); Izashiki 伊座敷 (T. Nakai and N. Maruyama s. n., 17 Apr. 1948, TNS); Prov. Satsuma, Yamakawa 薩摩山川 (K. Ochi 21, 23 May 1940, TNS).

4b) *Rosa* × *pulcherrima* Koidz. nothovar. **kanaii** H. Ohba in K. Iwats. & al., *Flora of Japan* **2b**: 177 (2001). [Fig. 5]

ドウリョウイバラ

ノイバラとモリイバラの雑種と推定される。花粉には稔性がない。葉にはモリイバラに似て小葉が小さめの型とノイバラに似て大きな型とがある。タイプは小さめの型のものである。小葉は5または7のものがほとんどで、頂小葉が若干大きめで、広楕円形または(倒)卵形で、先は鋭頭または微凸頭となる。托葉はほとんど全縁に近いものからノイバラのような歯状となるものまで変化がみられ、個体により一定している場合と1個体内でも変化がみられる場合がある。花序の花数は3つのものが多いが、1から4まで変化する。花柄はほぼ無毛に近いものから濃紅紫色の毛が密生するものまで変化がある。

モリイバラは九州から関東にかけての丘陵帯の上部から山地帯に広く分布するが、雑種は九州宮崎県で一度採集された以外は中部地方から関東地方で採集されているだけである。

下記に引用する標本のうち、神奈川県湯河原で古澤潔夫が1951年に採集した標本は初山により1977年にアズマイバラとモリイバラの雑種と考定されたが、これもノイバラとモリイバラの雑種と考定した。標本は4月に採集された果実を伴うものであるが、果実は登熟には至っておらず、この組合せの雑種は花粉が不稔であることと合わせ、種子もできない一代雑種であるように思われる。

以下に検した標本をあげる。

Japan. Honshu. Tokyo Pref. (prov. Musashi). Nishitama-gun, Kori-mura 武蔵西多摩郡古里村, alt. ca. 300-800 m (M. Mizushima, 27 July 1952, TI). Kanagawa Pref. (prov. Sagami). Hakone, Minami-ashigara-machi, Saijo-ji 相模箱根南足柄町最乗寺(道了尊), alt. 500 m (H. Kanai, 23 May, 1958, TI, holotype); Hakone 箱根 (T. Nakai, 1 June 1930, TI); Yugawara 湯河原 (I. Hurusawa, 2 Apr. 1951, TI). Yamanashi Pref. Torisawa, Anaji-toge 鳥澤アナヂ峠 (K. Hisauchi 326, 10 June 1943, TI). Nagano Pref. (prov. Shinano). Otaki-mura, Tarusawa 信濃王滝村タル沢国有林 (M. Mizushima, 14 Sept. 1953, TI); Shimoina-gun, Uriki 売木, alt. 900 m (T. Yamazaki, 13 June 1957, TI); Minamisaku-gun, Nakagome-machi, Uchiyama, Arahune 南佐久郡内山荒船 (K. Sato 2117, 8 June 1960, TI). Shizuoka Pref. Mts. Akaishi, Mt. Hijiri, Toyama-gawa, Higashi-zawa 赤石山脈聖岳遠山川東沢, alt. 1100 m (Yamazaki & al., 6 Aug. 1954, TI); Sunto-gun, Mt. Ihai-dake 位牌岳 (T. Sawada, 28 May 1927, TI). Mie Pref. Okukohadakyō, Kiyadani, Homare-bashi 奥香肌峡木屋谷ホマレ橋 (H. Hara & S. Kurosawa, 11 Oct. 1976, TI). Kyushu. Miyazaki Pref. (prov. Hyuga). Mt. Shiroyiwa, Iwa-mine 白岩山岩峯, alt. 1640 m (?M. or S. Hirata 平田正一, 17 July 1953, TI).

引用文献

- Akiyama S., Ohmori Y. and Ohba H. 2006. Geographical variations of *Rosa* (sect. *Synstylae*) *onoei* Makino (Rosaceae). Mem. Natl. Sci. Mus., Tokyo (42): 75-88.
- Momiyama Y. and Ohba H. 1988. *Rosa* and *Rubus* (Rosaceae). The University Museum, the University of Tokyo, Material Reports No. 16.
- Ohba H. 2001. *Rosa*. In: Iwatsuki K., Boufford D. E. and Ohba H. (eds.), *Flora of Japan* **2b**: 169-177. Kodansha, Tokyo.

(^a東京大学総合研究博物館,

^aUniversity Museum, University of Tokyo, Hongo 7-3-1, Tokyo, 113-0033 JAPAN;

E-mail: ohba@um.u-tokyo.ac.jp

^b国立科学博物館植物研究部,

^bDepartment of Botany, National Science Museum, Tsukuba, Ibaraki, 305-0005 JAPAN;

^c千葉県立中央博物館

^cNatural History Museum and Institute, Chiba, 955-2, Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba, 260-8682 JAPAN)